

中学校

技術・家庭科のあゆみ

開隆堂
東京書籍

昭和22▶25年度
《職業科時代》

時間数 各学年とも
週4時間

内容と学び方

農業科，工業科，
商業科，水産科，
家庭科
●学校は1科目ま
たは数科目を選択
して履修させる。

昭和26▶31年度
《職業・家庭科時代》

各学年とも
週3～4時間

第1類（栽培，飼育，漁，
食品加工）
第2類（手工作，機械
操作，製図）
第3類（文書事務，経営
記帳，計算）
第4類（調理，衛生保育）
●地域社会の必要性と学校や
生徒の事情によって適当な
ものを選択して履修させる。

昭和32▶36年度
「技術・家庭科」設立準備

各学年とも
週3～4時間

第1群（農業）第2群（工業）
第3群（商業）第4群（水産）
第5群（家庭）第6群（職業
知識）
●地域や性別に関わりなく，
第4群を除く各群について少
なくとも35時間ずつ学び，残
りの時間については，地域や
性別により，第1群から第5
群の中から選択して学ぶ。

「職業・家庭科」から「技術・家庭科」へ

史上初の人工衛星の打ち上げを契機とした，国際的な科学技術開発への関心は，国内でも変化を生み出す。経済の高度成長は産業構造や就業構造を変化させ，科学技術教育の規模の拡大と水準の向上への期待が高まってきた。

昭和33年の教育課程審議会の答申では，職業・家庭科を改め，これと図画工作科において扱われた生産技術に関する部分とを合わせることで，男子向きには工的内容を中心とする系列，女子向きには家庭科的内容を中心とする系列を学習させることが示された。

こうして，同年の学習指導要領で，必修教科として中学校「技術・家庭科」が創設された。なお同じ時期に職業に関する教科が選択教科となった。

- | | | | |
|------------|-----------------|-----------------|---------------------|
| 出来事 | S22 日本国憲法施行 | S26 産業教育振興法成立 | S32 人工衛星スプートニク1号打上げ |
| | S23 リンゴの唄 | S28 NHKテレビ本放送開始 | S33 東京タワー完成 |
| | S24 真空管ポータブルラジオ | S30 自動式電気釜 | S34 ON時代 |
| | S25 JISマーク制定 | S31 「もはや戦後ではない」 | S35 インスタントコーヒー |